

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100795		
法人名	株式会社かすみコーポレーション		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム意宇の燈		
所在地	島根県松江市八雲町東岩坂77-3		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和3年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所のハード面の特色として、畑付きの前庭があり、ご入居時に御家族様に説明・同意を得た上で、日中の時間帯において、正面玄関を開放させていただき、敷地において自由に入出りいただいています(職員が適宜見守り・所在把握をさせていただいています)。また、前庭にて、お客様・職員と一緒に歌を歌ったり、レクをしたり、畑で作物を植えたり収穫する等の活動を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和2年4月に開設された新しいGHです。施設の名称には利用者一人ひとりの暮らしや地域の皆様を明るく照らす存在でありたいという願いが込められています。
 田園地区の中に建てられた静かな環境の中、芝生が敷かれた前庭で外気を感じ過ごすことができ、畑の手入れもされています。食事はすべて手作りされ、収穫された野菜も献立に取り入れられています。
 開設以来、コロナ禍の状況が続いており、中々地域との活動に取り組み無状状況ですが、今後、地域に周知され、愛されるGHを目指し現在下準備に取組まれています。
 また、職員と利用者との信頼関係を深め、一人ひとりの利用者の持つ能力の活用が図れるよう継続しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成し、毎月のミーティングで唱和。実践に繋げている。	事業所理念について職員に理解してもらうために毎月のミーティングで唱和を行い、実践に繋がれるように努めています。	理念が実践できているか定期的に振り返りを行なわれると良いと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でなかなか外部との交流が出来ない状況にある。	コロナ禍のなか開設された事もあり、地域との交流が十分にできない状況ですが、状況を踏まえつつ地域との交流を進める準備に取り掛かっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でなかなか外部との交流が出来ない状況にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍でなかなか外部との交流が出来ない状況にある。その為、運営推進会議として集まることは出来ていないが、意見用紙にて、ご意見を頂戴し、サービス向上に繋げている。	コロナ禍のため対面での会が開催できませんが、2ヶ月に一度書面により報告等を行い、委員の方から書面で意見を伺い、運営に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に松江市介護保険課様にご参加いただくとともに、相談・連絡・報告を行い、連携を図らせていただいている。	運営推進会議のメンバーにも松江市介護保険課職員に参加頂き、助言等を頂かれています。又、地域包括支援センターとも連携が取られています。介護保険の制度上、疑問なことなどは直接松江市介護保険課に確認されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の特徴として前庭があり、全ての御家族様にご入居時に同意を得た上で、荒天の日を除き、随時玄関を開放し、お客様に自由に行き来いただいている。また、身体拘束の内容について、職員に周知している。	身体拘束廃止検討委員会は3ヶ月に一度開催され、日々身体拘束とならないよう職員にも意識付けを行い、身体拘束チェックも行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者含め、職員は虐待を見逃ごすことのないようにしている。	身体拘束廃止検討委員会と併せて虐待防止委員会も開催されています。日常的にホーム全体で、虐待を見逃さない体制が構築されています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所長は社会福祉士資格を持ち、過去に日常生活自立支援事業・成年後見制度の研修に参加している。その他、一部職員も制度概要について理解しているが、全職員が理解しているとは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時は十分に説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表様にご参加いただき、ご意見を頂戴している。また、他の御家族様からも随時ご意見を頂戴している。	家族の方には、面会時や介護計画の評価・見直し時に直接、又は電話で意見・要望を伺いようにされています。利用者の日々様子は、請求書と一緒に毎月お便りをお送りしておられます。運営推進会議にも家族代表の方に参加頂き意見等をお聞きしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	委員会やミーティングその他、随時職員の意見・提案を聴く機会を設け、運営に反映させている。	各委員会や毎月のミーティングの折に、職員からの意見・提案を聞く機会が設けられており、運営に活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	左記のように、職員各自が向上心を持って業務に当たれるよう、職場環境・条件の整備に努めている。	働きやすい職場環境作りを心掛け、職員がやりがいが持てる様、頑張っている職員が評価される職場を目指して整備されています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	左記のように、職員個々の資質向上の取り組みを行っている。	職員の力量や経験年数を基に、必要な内外の研修の機会を持てるようにされている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であり、なかなか外部との交流が難しいが、研修等、ネットワーク・情報交換の場作りは以前から提案されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の困りごと・不安な事を解消するよう努め、関係づくりを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の困りごと・不安な事を解消するよう努め、関係づくりを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・御家族様の必要とされる支援について、随時対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主役はお客様であり、職員はサポートする側との意識を持って支援に当たっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様とともに本人様を支える意識を持ち、協力しながら本人様を支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり、なかなか外部との交流が難しいが、窓越しでの面会とさせていただき等、御家族様・知人等との関係が途切れないよう配慮している。	コロナ禍の為、中々馴染みの場所への外出や、友人知人と直接会う機会が持ちにくい状況です。面会はコロナ対策の為、窓越しの面会となっております。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係性を把握し、良好な関係性が築けるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、必要に応じてご相談に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の生活歴の把握に努め、出来る限り本人様の意向に沿った暮らしをご提案できるよう努めている。	職員は、日々の会話を通して、出身地や兄弟の話や食事の好みの話をし、本人の希望・意向をくみ取るようにしています。意思疎通が困難な場合には、生活歴や家族に聞き意向に合った暮らしの提案が行なわれています。	利用者の方が、健康で長生きして良かったと思って頂けるような、利用者本人にとっての目的や目標と一緒に考えてあげる事も良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様の生活歴の把握に努め、出来る限り本人様の意向に沿った暮らしをご提案できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する能力等の現状の把握に努めている	本人様の過ごし方、心身状態・有する能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にミニカンファレンスを行い、情報収集・共有に努め、本人様の現状に即したプラン作成に努めている。	毎月のユニット会議で担当職員を中心にミニカンファレンスを行い、評価・見直しは6ヶ月に1回行われています。多職種や家族の意見・要望も聞きながら、利用者の現状に即した介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	左記のように、日々の様子をできるだけ詳しく記録に残し、本人様の支援に反映させている。	職員は日々の様子や変化を詳しく記録に残し、担当職員を中心にケアの実践状況や気づきの情報を共有し実践されており、見直しの際にも反映させておられます。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	対応可能な範囲での柔軟なサービス提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、本人様がより良い暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・御家族様の意向を踏まえ、主治医との連携に努めている。	利用者、家族の意向を踏まえた形でかかりつけ医は決定されています。殆どの方が毎月往診に来て下さる協力医をかかりつけ医とされていますが、従来からのかかりつけ医の方もおられます。内科以外受診は家族にお願いされますが、場合によってはホーム看護師が対応することもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	左記のように、介護職・看護職間で情報共有に努め、本人様のより良い支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報共有に努め、円滑に入退院支援が出来るように努めている。	入退院の際には入退院のカンファレンスを持ち、関係者間で情報共有し、スムーズに入退院支援が出来るよう心掛けておられます。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に全ての家族様に重度化対応指針・医療意思確認書を説明し、同意を得ている。地域関係者と連携を図り支援している。	利用開始時に利用者、家族に重度化対応指針・医療意思確認書の説明を行い、同意を得ておられます。重度化してきた段階で、管理者、看護、介護職員、家族で話し合い、可能な限りの支援が行なわれます。	死生観についての研修も実施されても良いと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時の連絡体制を整備している。今後、さらに訓練を重ねていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行い、災害時の対応方法の周知に努めている。地域との協力体制は一層の努力を要す。	防災訓練、避難訓練が実施されて、対応方法の周知が図られています。現在防災計画はありますが、次なるBCP計画の作成については、社内研修が実施されており、今後作成される予定となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様一人一人の人格を尊重した声掛け・対応に努めている。	接遇研修は年に1回行われており、丁寧な言葉掛けや利用者一人ひとりを尊重した対応を心掛けるようにされています。毎日の朝礼時には標語を読みあげておられます。プライバシーを確保すべき場面においても損ねない対応が取られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の支援の中で、本人様の自己決定・意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活リズムを尊重した支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様らしい服装・身だしなみが出来るような支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	左記のように、可能な限りお客様・職員が協力して食事準備・片付けを行っている。	食事は3食とも手作りで提供されます。利用者の方も、下ごしらえ、後片付け等できることを手伝って頂かれています。ホームの家庭菜園で野菜を育て、収穫した際には献立にも取り入れておられます。行事食や季節の料理、お誕生日会のケーキ等利用者の方が楽しみとなるようなメニューもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	左記のように、食事量・水分量が確保できるよう、本人様の状態に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎予防も含め、口腔ケアを行っている。	毎食後には、口腔ケアが行なわれています。	協力歯科医院の協力のもと、口腔のチェック等も行われても良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレでの排泄・オムツ外しが出来るよう、本人様の状態に合わせた支援に努めている。	排泄チェック表に記入し、利用者それぞれの方のリズムを把握し、必要な方には声掛けや定時誘導が行なわれています。原則可能な限りトイレでの排泄の継続を目指しておられ、本人様の状態に合わせた対応が行なわれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取の促し・適度な運動促しにより、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り本人様の意向に沿った入浴支援に努めている。	基本的には週2回は入浴いただける様な体制となっており、可能限り、利用者本人の希望に沿う形や時間での入浴支援が行なわれています。また、その日の体調の変化に応じて対応しておられます。ホームには特殊浴槽も完備されており重度化対応も可能となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様のペース・状態に合わせて、安眠が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報共有を行い、使用されている薬の種類・目的の把握に努め、服薬支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬管理は看護・介護職員協力のもと行なわれており、飲み忘れ、飲み残しの無い様支援されています。薬の種類や効能についても職員間で情報共有されています。服薬により症状の変化も確認しておられます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の生活歴の把握に努め、お一人お一人の意向に沿った役割作り・嗜好品・楽しみ作り・気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍であり、なかなか外出が難しい状況にあるが、日常的に正面玄関を開放し、前庭にお出かけいただけるようにしている。また、いつもではないが、職員付き添いの元、お一人ずつ、あるいは数人ずつで近隣に散歩に出かけていただいている。	コロナ禍の為日常的な外出は難しい状況ですが、近隣お散歩や病院受診の外出はあります。日常的にはホーム前庭に出て、外気を感じ季節の移り変わり確かめて頂いたり家庭菜園を見に行かれる方もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の対応として、本人様に現金を所持していただくことは行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方で、家族様との電話が可能な方は、個別に携帯電話を所持していただいている。手紙を希望される方は、家族様に便箋・封筒を持参いただき、書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	左記のように、お客様が不快感や混乱を生じられないよう配慮した環境整備を行っている。	食卓に花を飾ったり、季節飾り物や空気清浄機を設置し、換気にも気をつけておられます。食事が手作りということもあり、生活の音や匂いを感じられる自宅に近い生活環境となっています。自分の好きな居場所を作りゆったりと過ごすことができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	左記のように、本人様の意向に合わせ、一人になられたり、お客様同士で過ごせるような居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様・家族様の意向を尊重し、馴染みのものを持参いただいたりし、本人様が居心地よく過ごせる工夫を行っている。	自宅のお部屋の雰囲気大切にしておられ、利用者、家族の方には馴染みの物を持ち込んで頂く等利用者本人が過ごしやすくなる様工夫されています。利用者の方の生活歴を参考にしたり、動きやすい動線を考慮したベッドの配置なども行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人が、それぞれに「できること」「わかること」が可能なように配慮した環境作りを行っている。		